

受講番号 18013 学校名 高知東高等学校 氏名 小島 文晴

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生(習熟度別bクラス) 生徒数 27 名

科目名 英語 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Lingua-Land (教育出版)

クラスの様子・特徴

少し落ち着きなく、私語が過ぎる場合もあるが、元気である程度まとまりがあり、指示も通りやすい。学力的にはクラス内ではそれほど大きな差はないが、やる気面で生徒によって大きな差があるように見える。

問題の確定

苦手意識を持ち、嫌う生徒が多い。楽しみを持たせ、動きとメリハリをつけた授業を展開し、生徒主体の授業を心がける。

予備調査

A 授業の観察

当初は忘れ物をしていても気にせず、簡単に分からないと答える生徒がいた。徐々に改善されはしたが、まだまだその傾向は残る。それでも授業への取り組みやメリハリは少しずつながら良くなってきたように感じられる。点数や評価を気にする生徒は多い。

B 生徒による授業評価

英語が嫌い43%(好き19%)、苦手71%(好き0%)、週あたりの家庭学習は、0時間-67%、1時間-19%という教科に対する否定的な結果が出た。授業に対する要望として、分かりやすい、面白い、コミュニケーションがとれるなどの意見が出た。

C 学力データ

4月課題テスト クラス平均29.4(学年39) 語彙サイズテスト(2000語) 平均1184 最高1433 最低867 中間検査クラス平均77点(学年76点) 最高96 最低43 期末検査クラス平均62点(学年64点) 最高86 最低32

リサーチ・クエスチョン

本文内容を理解し、まとまりある文が書けるようになるにはどうすればいいか。

仮説・実践・検証

仮説1

単語の習得:新出単語を中心に、楽しみながら意味を知り、いろいろな活動を通して、繰り返し読んだり書いたり聞いたりすることで、単語の習得ができるようになるのではないかと。

実践1

各レッスンで 新出単語や頻出語を利用して、さまざまな単語ゲームや活動をおこなった。ただし、活動の中にも段階をつけ、見て分かる 読める 書けるようになるという流れを作ることに注意した。また単語確認テストやディクテーションを行い、習熟の度合いを測れるようにも努めた。

検証1

ビンゴ、Word competitionなどの活動を通して、知ることから読む、書くという段階をへた流れに生徒たちも慣れ親しみ、楽しみながら良くていけたと思う。アンケートでもほぼ全員が良くでき、役に立ってと答えてくれた。また語彙サイズテストでも一応の進歩の結果が出たように思う。ただ、単語の習熟を測るテストや確認作業を今後、さらに取り入れやっていく必要があると感じた。

仮説2

本文の意味を知ることによって読むことへの抵抗を少なくする。意味が分かった上で読むと、理解も深まり、楽しく読むことができるのではないかと。

実践2

スラッシュを活用しての英文を前からかたまりごと理解していくという方法を2学期から取り組んだ。音読作業の際には、それを生かして、意味を知った上でchorus reading, shadowingから速読までおこなった。この中でも、ゲーム性を持たせ楽しみながら読むことや、自分の成果が分かる課題やテストを最終的に行った。

検証2

スラッシュごとの訳に関しては80%以上の生徒が「普通」という回答(分かる36%)だった。このことから、英語を頭から理解するという意図が伝わっていないことがわかった。音読では、Reading Competitionを各レッスンで行い、自分の成長の度合いがわかるように練習の前後の時間を測定した。ほとんどの生徒が素早く、正確に読めるようになり、読めるようになると声も自然と大きくなり、クラスに活気が出た。

仮説3

レッスンの中での定期的かつ段階的な課題を出し、小テストの実施を習慣付けることによって、家庭学習の定着につながるのではないかと。

実践3

各レッスンの最後に、本文丸覚えテストを行った。最後に本文CDを一度聞いて、文章を校正することができた。採点は教科書を見て自己採点。100%中の正解率を出す。また、それまでに単語ディクテーションから本文ディクテーション、音読筆写などを利用し、意識づけをした。また、一週間前にはテストの予告を行い、家庭学習を促した。

検証3

本文を覚える作業は生徒たちにとっては、大変だったと思うが、アンケート結果によると、90%以上が単語や文章を覚えるのに役立ったと答えてくれた。特に、授業の中でしっかりと準備と意識付けができた時は単語数に関わらず、平均点も高くなることがわかった。家庭学習に関しては、5月時に比べて、増えたと答えた生徒は8%(2名)のみであった。また週当たりの時間数も若干の伸びはあるが、52%が0時間のままである。

研究の成果

アンケート結果から、4月からくらべて授業の取り組みがよかった生徒が64%、英語が好きになってきたという生徒は45%であった。また、単語活動や音読、小テストも、はっきりとした流れを作ることで、生徒自身が徐々に慣れ、楽しみながらも一生懸命に取り組むことが出来てきた。教師側が、目標をはっきりと掲げ、成果を目に見える形にすると、生徒も理解し、積極的な取り組みにつながった。

今後の授業改善の課題

アンケートの中で、「話せるようになりたい」、「外国人とコミュニケーションを取れるようになりたい」という意見が多かった。今後は、教科書で得た知識を、自分の意見として実際に表現できるような活動も取り入れていきたい。また、家庭学習を全くしない生徒が52%という結果から、授業中だけでなく、自ら学ぼうとする意欲を持たせられるように、さらに努力をしていく必要があると感じた。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-845-5751

電子メール

takeharu_ojima@kt5.kochinet.ed.jp